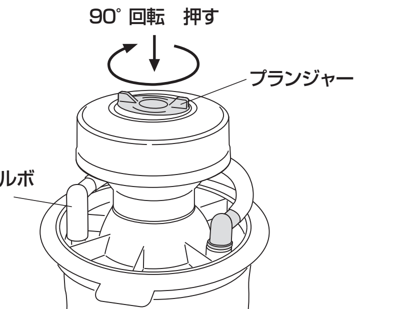
吸引が終わったら

1 一体型の場合

1. 吸引源をOFFにし、インレットエルボをそれぞれのインレットに接続してください。
2. プランジャーを 90°回転させて下まで押し込んでください。凝固剤が投入されます。（ほとんどの排液は約1時間で凝固します）
3. 内部が凝固していることを必ず確認し、片手でキャニスターを支え、もう一方の手でバッグタイプの突起部分を持ち上げた後、凝固剤ユニットを持ってバッグタイプを取り出してください。



⚠ 注意
チューブが外れ、バッグ内の排液が飛散する恐れがありますので、チューブを持ちながらバッグタイプを取り外したり、持ち運んだりすることは避けてください。

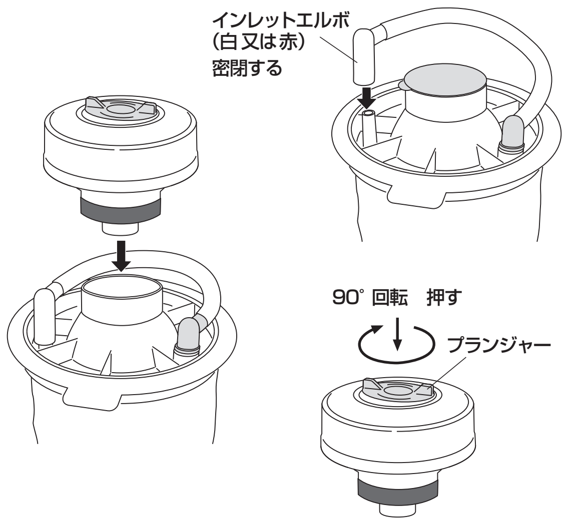
4. バッグタイプを院内の「廃棄物処理規定」に従って処理してください。

2 排出型の場合

吸引源をOFFにし、インレットエルボをそれぞれのインレットに接続してください。

1. **排液を凝固する場合**
   ① センターキャップを外し、凝固剤ユニットをセットします。（凝固剤ユニット3.5Lはクリック感がするまで時計方向に回してください）
   ② 凝固剤ユニットのプランジャーを90°回転させて下まで押し込んでください。凝固剤が排液中に投入され、凝固が始まります。
   ③ 内部が凝固していることを必ず確認し、片手でキャニスターを支え、もう一方の手でバッグタイプの突起部分を持ち上げた後、バッグタイプを取り出してください。
2. **排液を排出する場合**
   ① 片手でキャニスターを支え、もう一方の手でバッグタイプの突起部分を持ち上げた後、バッグタイプを取り出してください。
   ② 排液を排出してください。

バッグタイプを院内の「廃棄物処理規定」に従って処理してください。



⚠ 注意
吸引後の操作はすべてゴム手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を着用し、十分注意して作業を行ってください。

⚠ 使用上の注意

1. 本製品は専門の教育を受けた者のみが使用すること。
2. 本製品を使用する前には、必ず表示事項及び取扱説明書を熟読し、その内容を熟知すること。
3. 吸引源以外には接続しないこと［陽圧の配管に接続すると患者、使用者及び装置に損傷を与える可能性がある］。
4. 使用する流量及び圧力に関しては、術法、対象部位、大きさ、患者の体格と年齢、使用者の経験及び技法を勘案して行うこと。
5. レギュレータ及び貯溜容器並びに先端具等は、使用前に磨耗や亀裂がないか、又は著しい劣化がないか点検すること。［排液の漏れ、又は飛散による周囲環境汚染の恐れがある］。
6. 使用前に吸引圧力調整部及び廃液貯溜部並びに各ホースや先端具等の接続状態、更に医療ガス配管設備との接続状態の点検を行い、本製品が正常に作動することを確認すること。
7. 使用中に異常を感じた時は、使用を中止すること［排液の漏れ、又は飛散による周囲環境汚染の恐れがある］。
8. 本製品を使用する使用者自身が各術法に応じた使用を行い、使用すること。
9. アルコール等の有機溶媒を吸引しないこと［フローストッパーからの排液漏れや、凝固不良の原因になる］。
10. 過貯溜防止装置（フローストッパー）が作動するまで吸引しないこと。
11. 過貯溜防止装置（フローストッパー）が作動して吸引が停止した場合、そのまま放置せず速やかに医療配管設備の供給状態を停止し、貯溜容器を交換すること［キャニスター又はバッグに高い圧力が負荷され破損の恐れがある］。
12. 使用後はインレットエルボをインレットに確実に接続し貯溜容器を密閉すること。
13. レギュレータの操作において無理な力を掛けないこと。
14. 吸引圧力の調整に際しては患者側に吸引圧がかからないように患者側の吸引チューブを閉塞し、開閉バルブを「OPEN」側にしてから圧力調整ノブの回転ロックを外し、圧力調整ノブを回して吸引圧を調整すること。
15. レギュレータの圧力調整ノブの誤回転防止のため、吸引圧力の調整時以外は圧力調整ノブに回転ロックをかけておくこと。
16. レギュレータの異常、吸引力の低下、誤吸引においてレギュレータを汚損した場合には直ちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。
17. 使用後、持ち運ぶ際にはバッグ全体を持つこと［チューブ等を持って運ぶと接続部が外れ容器内の排液が飛散する恐れがある］。
18. 使用後は院内の「廃棄物処理規定」に従って処理すること。
19. 使用後に排液を排出する場合（排出型のみ）は、ゴム手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を必ず着用すること［排液が飛散する恐れがある］。
20. 本製品を採血用吸引器として、絶対に使用しないこと。
21. 一つの医療ガス配管設備では一つの吸引を行い、ふたまた等の同時使用は絶対に避けること。
22. 吸引チューブを直接患者に適用せず、必ず先端に適切な先端具を接続して使用すること。
23. レギュレータ及び貯溜容器を取り替える場合、必ず医療配管設備の供給状態を停止し、その後接続を切ること。
24. 本製品を設置するときには、次の事項に注意すること。
    イ. 水のかからない場所に設置すること。
    ロ. 温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分等を含んだ空気等により、悪影響の生じるおそれのない場所に設置すること。
    ハ. 傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）など安定状態に注意すること。
    ニ. 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置しないこと。
25. 本製品を使用する前に次の事項に注意すること。
    イ. レギュレータ及び貯溜容器並びに各チューブや先端具等の接続状態、更に医療ガス配管設備との接続状態等の点検を行い、本製品が正常に作動することを確認すること。
    ロ. チューブ類の取り外しに際しては、無理な力を掛けないこと。
26. 本製品の使用後は次の事項に注意すること。
    イ. 定められた手順により、開閉バルブ、圧力調整用ノブ等を使用前の状態に戻した後、医療ガス配管設備の供給状態を停止し、その後接続を切ること。
    ロ. チューブ類の取り外しに際しては、無理な力を掛けないこと。
27. 本製品が故障したときは、勝手に分解しないこと。修理は必ず専門家に依頼すること。又消耗品は弊社純正部品を使用すること［不完全な修理、部品の交換は正常な機能や安全の保障ができないため］。
28. 本製品の分解・改造は絶対にしないこと［正常に作動しなくなる恐れがある］。
29. レギュレータを滅菌する場合は、EOG滅菌（温度50℃以下、湿度75%RH以下）で行うこと。それ以外の各構成品はEOG滅菌やオートクレーブ、及びウォッシャーステリライザーによる熱湯消毒等は避けること。
30. キャニスターやレギュレータはアルコール等の有機溶媒で清拭しないこと。
31. 本製品は室温で使用すること。
32. レギュレータの真空計には衝撃を加えないこと［ガラス面が破損する恐れがある］。

製造販売業者
大研医器株式会社
〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-6-2

0909B ＜社内管理番号：0230450100＞

医療社会を未来する――
大研医器株式会社

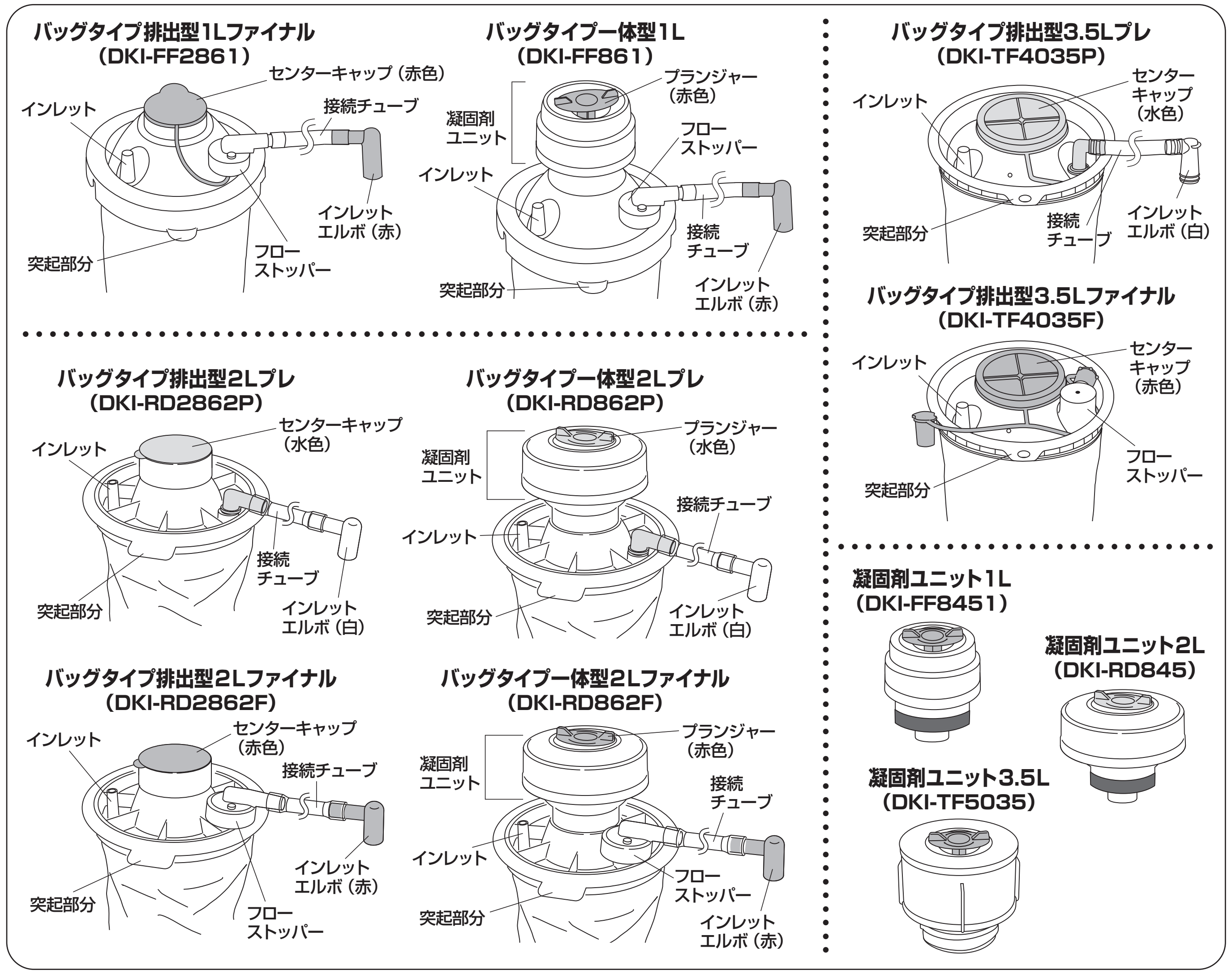
一般医療機器 特定保守管理医療機器／一般的名称：真空吸引器／医療機器届出番号：27B1X00013000001／販売名：フィットフィックス

フィットフィックス® 取扱説明書

バッグタイプ排出型1Lファイナル（DKI-FF2861）
バッグタイプ一体型1L（DKI-FF861）
バッグタイプ排出型2Lプレ（DKI-RD2862P）
バッグタイプ排出型2Lファイナル（DKI-RD2862F）
バッグタイプ一体型2Lプレ（DKI-RD862P）
バッグタイプ一体型2Lファイナル（DKI-RD862F）
バッグタイプ排出型3.5Lプレ（DKI-TF4035P）
バッグタイプ排出型3.5Lファイナル（DKI-TF4035F）
凝固剤ユニット1L（DKI-FF8451）
凝固剤ユニット2L（DKI-RD845）
凝固剤ユニット3.5L（DKI-TF5035）

この度は、フィットフィックス製品をお買い上げ頂き、誠に有難うございます。
本製品をご使用する際には、必ずこの取扱説明書をお読み頂き、お取り扱いくださいますようお願い致します。

■各製品の概略



COOPDECH

吸引をはじめるには

1　バッグタイプの準備

A. 4連結の場合（2L）	2Lプレのバッグタイプ3本と2Lファイナルのバッグタイプ1本
B. 2連結で吸引方向の切り替えを行う場合（2L）	2Lプレのバッグタイプ2本と2Lファイナルのバッグタイプ2本
C. 2連結の場合（3.5L）	3.5Lプレのバッグタイプ1本と3.5Lファイナルのバッグタイプ1本
D. 単独で吸引方向の切り替えを行う場合（3.5L）	3.5Lファイナルのバッグタイプ2本
E. 壁掛けセットを使用する場合（1L, 2L）	1L又は2Lファイナルのバッグタイプ1本

※図の接続以外にも製品の組み合わせにより様々な連結が可能です。詳しくは担当営業までお問い合わせください。

2　バッグタイプの装着

プレのバッグタイプはプレのキャニスター（底面に［P］シール貼付のもの）、ファイナルのバッグタイプはファイナルのキャニスター（底面に［F］シール貼付のもの）にバッグタイプの突起部分を外側にして装着してください。なお、キャニスターにバッグタイプを装着する際にはバッグを伸ばし、バッグをはさみ込まないようにしっかりと装着してください。

⚠ **注意**
- 連結したキャニスターには、すべてバッグタイプを装着して使用してください。吸引ができなくなります。
- 必ず［P］の表示のキャニスターにはプレのバッグタイプを、［F］の表示のキャニスターにはファイナルのバッグタイプを装着してください。［P］と［F］を間違えると、吸引配管、レギュレータの汚損、詰まり、故障等の原因になります。
- バッグタイプをキャニスターに装着するに際は、インレットエルボ（白又は赤）を外し、バッグをしっかりとのばしてからキャニスターに装着してください。バッグの破損、排液の漏れの原因になります。

3　バッグタイプの連結（右図参照）

バッグタイプのインレット（白又は赤）を右図のように接続してください。

4　患者側吸引チューブの接続（右図参照）

バッグタイプのインレットに吸引チューブを接続してください。

⚠ **注意**
吸引チューブを直接キャニスターの接続口（透明）［赤シール貼付］や三方活栓に差し込まないでください。誤接続によるレギュレータの汚損や吸引配管の詰まりの原因になります。

5　吸引の開始

バッグタイプの連結を確認の上、吸引を行ってください。

⚠ **注意**
アルコール等の有機溶媒を吸引しないでください。フローストッパー（過貯溜防止装置）の動作不良や、凝固不良の原因になります。

⚠ **注意**
ファイナルのバッグタイプはキャニスターの一番上の目盛りまで吸引しないように注意してください。万一フローストッパー（過貯溜保護装置）が作動した場合、接続チューブ内に排液が残り処理が困難になることがあります。接続チューブ内に排液が残った場合は、吸引源をOFFにした後全てのバッグタイプをキャニスターから少し持ち上げ、隣のバッグタイプからインレットエルボを外し接続チューブ内の排液をバッグに戻してください。

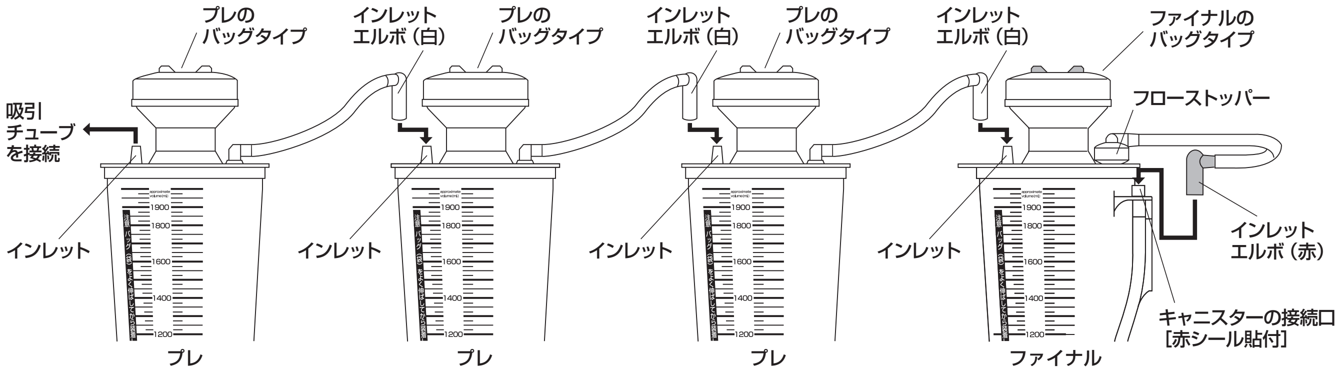
■ 仕様

品　　　　名：フィットフィックス
品　　　　番：右表参照
容　　　　量：右表参照
フローストッパー：右表参照
（過貯溜防止装置）
凝　固　剤：右表参照
吸　引　流　量：右表参照
（対象：空気）
保　管　条　件：周囲温度/－5～40℃
相対湿度/10～80%
（結露無き事）

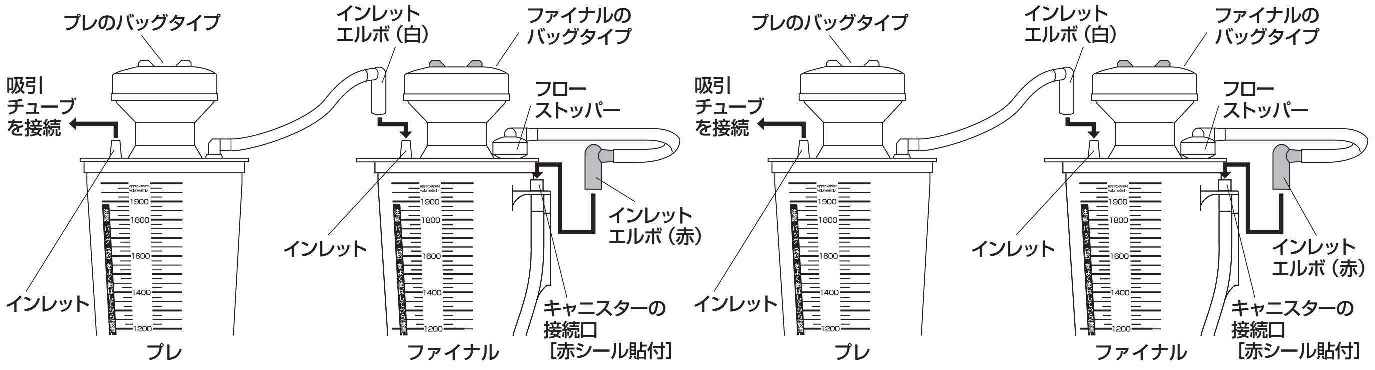
品　番	容量(mL)	フローストッパー（過貯溜防止装置）	凝固剤	吸引流量(L/min)※
DKI-FF2861	1000	○	－	41
DKI-FF861	1000	○	○	－
DKI-RD2862P	2000	－	－	－
DKI-RD2862F	2000	○	－	42
DKI-RD862P	2000	－	○	－
DKI-RD862F	2000	○	○	42
DKI-TF4035P	3500	－	－	－
DKI-TF4035F	3500	○	－	42
DKI-FF8451	（1L用）	－	○	－
DKI-RD845	（2L用）	－	○	－
DKI-TF5035	（3.5L用）	－	○	－

※吸引源は－95Kpa、50L/minを使用（ISO10079-3に準拠）
吸引流量は、環境温度、連結本数等の使用条件により変化します。

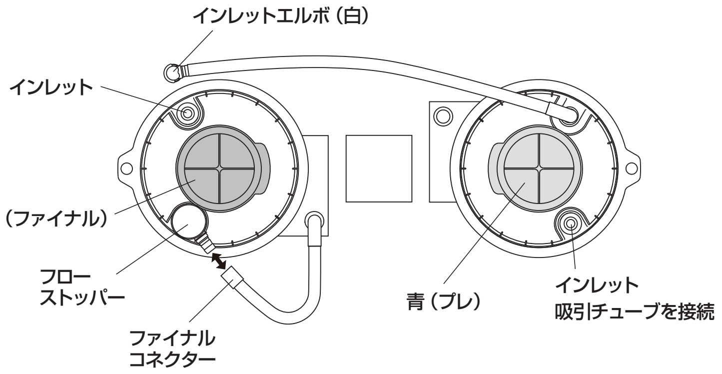
A. 4連結の場合（2L）　※図は一体型ですが、排出型の場合も同様です。



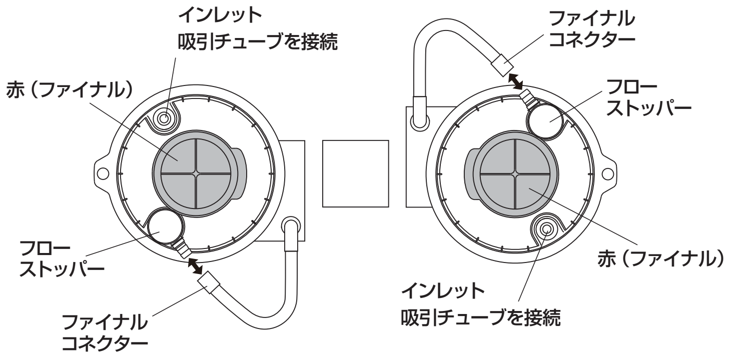
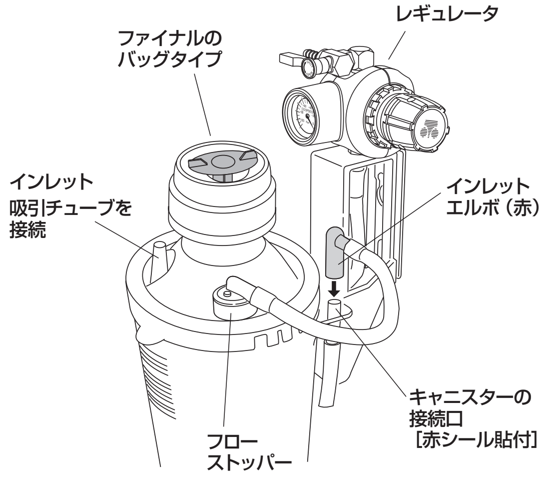
B. 2連結で吸引方向の切り替えを行う場合（2L）　※図は一体型ですが、排出型の場合も同様です。



C. 2連結の場合（3.5L）



D. 単独で吸引方向の切り替えを行う場合（3.5L）



E. 壁掛けセットを使用する場合（1L, 2L）